

中野区多文化共生推進基本方針(案)について

区は、これまで第4回定例会において中野区多文化共生推進基本方針(素案)(以下、「素案」という。)について報告を行い、素案に対する意見交換会及び関係団体等へのヒアリングを実施してきた。

この度、意見交換会の結果及びこれまでの意見を踏まえた中野区多文化共生推進基本方針(案)についてまとめたので報告する。

1 素案に対する意見交換会の実施結果について

開催日時	会場	参加者数
1月26日(木) 19時	中野区役所	6人
1月27日(金) 19時	南中野区民活動センター	0人
1月28日(土) 14時	大和区民活動センター	2人
計		8人

2 素案に対する意見交換会における主な意見の要旨

別紙1のとおり

3 関係団体等へのヒアリングにおける主な意見の要旨

区内日本語学校等へのヒアリング及び外国人住民や外国人留学生へのインタビューなどにより意見を聴取した(別紙2のとおり)。

4 方針(素案)から方針(案)への主な変更点

別紙3のとおり

5 中野区多文化共生推進基本方針(案)について

別紙4のとおり

6 今後のスケジュール(予定)

令和5年 3月 基本方針策定

素案に対する意見交換会における主な意見の要旨

No	主な意見の要旨	区の考え方
1	どのような在留資格の方がいるのかを把握することが、今後の取組を進める際に重要だと思う。	現状の把握・分析をしっかりと行った上で、取組を進めていきたいと考えている。
2	小・中学校で日本語支援をしているが、人事異動により、学校側との関係が途切れてしまうことがある。継続的な関係を築ける取組を行ってほしい。	教育委員会と連携し、支援者と学校の関係が途切れないような取組を検討していきたい。
3	学校においては、外国人の子どもより親の方が日本語が分からない人も多い。子どもだけではなく、親に対しても日本語学習支援についてもっと周知して欲しい。	教育委員会と連携し、外国人の保護者に対しても周知を行ってほしい。
4	学校で日本語がある程度話すことができる子どもでも、理解しているようではないなったり、読み書きが不十分である場合があるなど、習熟度は簡単に測ることができない。できると見なされることで、必要な支援を受けられない子どももいるため、しっかりと習熟度を見極め、必要な支援を行う体制を作ってほしい。	教育委員会と連携し、外国人の日本語習熟度を正確に把握し、必要な学習支援につなげていく体制の整備を検討していきたい。
5	日本に来てすぐの外国人の子どもは、入学時期によっては、日本語が全く分からない状況ですぐ受験となってしまふ。例えば、1学年下げて入学するなど、時間的に余裕を持たせた進学、就学ができるよう、日本語の習熟度に合わせた対応ができないか。	教育委員会と連携し、本人の日本語の習熟度に合わせた対応を検討していきたい。
6	やさしい日本語は、いかに外国人が理解できる表現を用いるかが重要であると思う。区民に対してもそのようなやさしい日本語の普及を進めて欲しい。	外国人の立場に立ちつつ、外国人が理解できる表現を行うなど、話の内容を理解してもらえるような、やさしい日本語の普及啓発を進めていきたい。

No	主な意見の要旨	区の考え方
7	両親がワーキングビザで日本に来て、後に子どもが就職する時期となった場合、就労ビザを取る必要があるが、基本的に大学を卒業しないと就労ビザがとれない。早い段階からケアをしてあげないといけないと思う。	円滑に就労ビザを取得し、就職できるよう、相談機会の充実などの支援をしていきたい。
8	ニュージーランドの交流について、交換交流をきっかけとした交流がその後、継続していないようである。継続していくような取組を行ってほしい。	ニュージーランド子ども交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となっていたが、来年度は実施を予定しており、国際交流協会などと連携し、両国にとってより良い交流となるよう検討していきたい。
9	外国人の出身国によっては、男性優位な社会であり、男性の許可がないと女性は日本語の学習機会を持ってない事もある。そのような方にも届くよう取り組んでほしい。	日本語学習支援を充実させ、認知度を高めるなかで、様々な方が参加できるような環境の整備も検討していきたい。
10	町会独自で交流事業など行う事は困難であるため、区の方から出向いて連携するなど行政の支援が必要である。	町会や学校などに出向くなど、連携を強めることで事業の効果を高めていきたい。
11	外国人によっては、交流事業へ参加しようとする意思があまり感じない人もいるので、働きかけが必要である。	交流事業を充実させていくなかで、外国人が参加しやすくなるような環境、機運を作り出していきたい。

関係団体等へのヒアリングにおける主な意見の要旨

No	主な意見の要旨	区の考え方
「I 言語によるコミュニケーションの円滑化に向けた環境の整備」 に関連する意見		
1	日本語支援で読み書きとあるが、話したり聞いたりもある。読み書きだけでは不十分と感じる。	会話、読み書きを含めたコミュニケーションという観点から日本語学習を充実させていく。
2	言葉が通じづらいことから医療サービスを受けるのに躊躇してしまうので多言語対応をしてほしい。	医療も含め、関係する団体と情報共有や連携を検討していく。
3	日本語は難しく、地域の日本人と会話するのが難しいと感じるので、日本語の学習機会を増やしてほしい。	中野区国際交流協会が実施している日本語教室の地域展開を進めていく。
4	住民登録や健康保険などは、母国語で話してもらった方が安心だと思う。	A I 多言語通訳システムを活用し対応していく。
「II 外国人が安心して暮らしていくための生活支援」 に関連する意見		
5	区報が難しい。外国語で読めるカタログポケットなど便利なツールがあることを周知してほしい。	外国人にとって有益な情報を広く発信していく。
6	外国人への案内は、文章より、動画の方がわかりやすいと感じる。	文章だけではなく、見て、聞いて理解できるような発信も検討していく。
7	区のホームページだけではなく若い人たちがよく見るSNSで情報発信してほしい。	SNS等、若い世代が触れやすい媒体の活用により情報発信を推進していく。

8	来日当初は、銀行口座、携帯、住宅賃貸など多くの契約をしなくてはならないが、必要な書類などがわからないので、始めにやるべきことや、どこで何が必要かについて示してくれるものなど、支援してくれる仕組みがあるとよい。	外国人のニーズ、状況に合わせた情報発信を推進していく。
9	施設を利用したいが、どこにあるかや、どうやって利用するかがわからないので情報をまとめた一覧があるとよい。	なかの生活ガイドブックやホームページなどにおいて提供する情報を拡充していきたい。
10	海外から1人で来ている場合は、寂しさから心理的な問題を抱えることがあるので、悩み相談ができるとよい。	外国人のための専門相談会を充実させていくなかで、外国人が抱えている様々な悩みについて対応していきたい。
11	地域のイベントを網羅しているガイドブックや、外国人向けの情報をまとめたホームページがあるとよい。	なかの生活ガイドブックやホームページなどにおいて提供する情報を拡充していきたい。
「Ⅲ 地域の一員としての活躍の場の創出と相互理解の醸成」に関する意見		
12	日本人の友人や知り合いが欲しいが、関わる機会が少なくきっかけがつかめないので、交流する機会を増やしてほしい。	町会・自治会や区内大学と連携し、外国人を含めた誰もが気軽に参加できるイベント・交流事業を推進していく。
13	協働な関係を築き、継続していく上では、地域住民が外国人に対し「やってあげる」という関係ではなく、お互いが対等の立場で、「一緒に行っていく」という関係性が重要である。	外国人と日本人が互いに認め合い、地域の一員として地域社会に参加できるよう、交流機会を創出していくことで意識を醸成していく。

14	例えば料理など、一緒に共同作業することが交流の始まりへとつながるので、相互理解を考える上では、一緒に作業を行うことが重要だと思う。	共同をテーマに、相互理解が深められる交流機会の充実を図っていききたい。
その他		
15	関係団体が集まって、方針の進捗等について意見交換をする場を設けてほしい。	方針について、関係団体と意見交換する機会を作ることを検討していきたい。

方針（素案）から方針（案）への主な変更点

項目		頁	主な変更点 ※文言整理等の一部修正は除く	該当意見	
第2章 中野区の多文化共生を取り巻く現状と課題		2	1 社会的背景の「国や都の施策との連携」を「地域における多文化共生推進プラン(総務省)や東京都多文化共生推進指針との連携」に修正		
		3、4	2 区の多文化共生を取り巻く現状「外国人人口と増加率の推移」「在留資格別 外国人人口の推移」のグラフに2023年の数値を追記		
		5	2 区の多文化共生を取り巻く現状「国籍・地域別 外国人人口」のグラフを2023年1月1日現在の数値に修正		
第3章 多文化共生推進に向けた基本的な考え方	2 今後の取組の方向性	I 言語によるコミュニケーションの円滑化に向けた環境の整備	9	●日本語学習支援の充実の「日本語の読み書きができるようになること」を「日本語でコミュニケーションを取れるようになること」に修正	別紙2 No.1
			9	●日本語学習支援の充実＜取組の展開例＞の「小中学校における日本語学習支援」を「小中学校における児童・生徒の習熟度に合わせた日本語学習支援の推進」に修正	別紙1 No.4
			9	●やさしい日本語の普及啓発の「活用及び普及啓発を図っていきます。」を「活用及び普及啓発を中野区国際交流協会や区内大学等と連携を取りながら進めていきます。」に修正	

項目		頁	主な変更点 ※文言整理等の一部修正は除く	該当意見	
第3章 多文化共生推進に向けた基本的な考え方	2 今後の取組の方向性	II 外国人が安心して暮らしていくための生活支援	11	●情報発信の強化<取組の展開例>に「外国人のニーズ、状況に合わせた情報発信の推進」を追記	別紙2 No.8
			11	●情報発信の強化<取組の展開例>に「外国人コミュニティなど外国人同士のつながりを活かした情報発信の推進」を追記	
		III 地域の一員としての活躍の場の創出と相互理解の醸成	13	●外国人の地域への参画の推進<取組の展開例>の「外国人とのタウンミーティングなど」を「外国人とのタウンミーティングや留学生の懇談会など」に修正	
付属資料		15~17	資料1、資料2、資料3のグラフを2023年1月1日現在の数値に修正		

(案) 中野区多文化共生推進基本方針

Nakano Basic Policy
for the Promotion of Intercultural Cohesion

